

## 日本語学から考える文の理解（仮）（アウトライン）

寺尾 綾

### ●この講義のセールスポイントと講義の進め方

➤ ことばの用法・構造を意識して、文を理解する

利点①ことばの用法がわかれば、意味の違いが見えてくる。

②ことばの用法を知れば、どんな発話が続くか予想できる

③文の構造を意識すれば、文の理解力・読解力が上がる

例)「～は」と「～が」で始まる文は、後ろに何が続く? 「は」と「が」の用法は何がちがう?

ねらい

日頃あまり意識されない「は」と「が」は、どちらも主語を示し、用法は同じだと思われがちだが、用法が全く異なる。その用法の違いを知れば、後に続く文や発話が予想できたり、続く文との関係が明確になったりするということを知る。

ステップ1: 文や発話を読み／聞き、後ろに続く文を予想するタスク

ステップ2: なぜそう思ったか意見交換／答え合わせなど

ステップ3: 解説

ステップ4: その他の用例を参照しながら確認・練習

(いくつかの項目を取り上げた後、最後にまとまった対話やインタビューの生データを使用し、文を正確に理解・読解していく練習をする)

### ●ほかに扱う項目例（以下から抜粋して取り上げる予定）

\*「～するんです」「～なんだ」といった「のだ」のつく文の用法

\*文末の接続のことば（～が、～けど、～のに、～と、～たら、～れば）や接続詞の用法

\*やりもらい「あげる／やる」「くれる」「もらう」

\*その他

●さいごに、文を正確に理解する際の日本語ならではの困難点について考え、日本語が文脈への依存度が高いこと、日本語の用法・構造を知ることが、文の正しい理解（読解）につながることを確認。

以上